

しが国際協力親善大使レポート

とみな かなみ
富菜 華菜美さん

隊次：2016年度3次隊

職種：栄養士

派遣国：グアテマラ

自己紹介

2016年12月からJOCV栄養士隊員としてグアテマラ・ソロラ県サンティアゴ・アティトラン市にある私立病院のホスピタリートアティトランで糖尿病予防や妊産婦を対象にした栄養指導などを中心に活動しています。

グアテマラの気候について

「グアテマラってどこにあるのか分からないけど、なんだか暑そう！」というイメージの方は少なくないのでしょうか。グアテマラは北米と南米の間にある、中央アメリカという地域にあります。事実、日本より赤道に近い場所に位置しているのですが、標高や地形などによって、気候が全く異なります。年中、半袖で過ごせる地域があれば、雪こそ降りませんが、毎朝吐く息が白くなる地域もある国です。私が生活している街は“常春”とも呼ばれるくらい1年を通して過ごしやすい陽気です。

任地・サンティアゴ・アティトラン市での生活

グアテマラの公用語はスペイン語ですが、地域によって20を超えるマヤ言語（現地語）が存在するといわれています。街の発展と共に現地語が使われなくなっている地域もあるようなのですが、私が生活しているサンティアゴ・アティトラン市はマヤ文明がもたらした伝統や風習が色濃く残る街です。住民の多くは現地語のツツヒル語を話し、女性たちは民族衣装であるウイピルを着て生活するなど、彼らは彼らの文化をととても大切にしているのが感じられます。

私の街からは”世界一美しい湖”と言われているアティトラン湖を望むことができます。標高3,000mほどの火山に囲まれたおだやかな湖で、夕暮れ時の湖は季節によって色が違って見え、何とも言い表すことができないほど美しい景観です。アティトラン湖はグアテマラ屈指の観光地で国内外から観光客が多く訪れますが、地元住民にとっても湖水浴、釣りなどの漁業、洗濯などに利用しており、生活に欠かせない存在です。

面積は琵琶湖の5分の1ほど、と聞くと滋賀県の方からすると、そんなに大きくないと思ってしまいませんか？（私はこの街に来て初めて、琵琶湖っておっきかったんやなあ実感できました。）琵琶湖にあって、ここにはないもの… それは橋です。当然ながらここには琵琶湖大橋

も近江大橋もないので、湖の対岸に行くには公共交通機関のボートを使うか、湖岸沿いの悪路を2時間ほどかけてバスに揺られなければなりません。

私が日常で使っているのは、20人ほどが乗れるボートです。20分ほどで湖の対岸まで行くことができる便利な乗り物なのですが、ひとつ問題があるとすれば時刻表がないことです。

ボートが乗客でいっぱいになったら出発するというシステムなのですが、運が良ければすぐ出発、悪ければ1時間以上ボートの上で待たなければなりません。なので、ボートを使って出かけるときは、運が悪いことを想定して到着の2時間以上前にボート乗り場についていることが習慣となりました。

この街についたばかりのときは、待たされる時間にいらしてしまい、いつ出発するのか、待ち合わせに遅れたらどうしよう！ということばかり気にしていましたが、現地の人々の様子を見てみると、「あれ？急いでるのって私だけ？」ということに気づきました。日常においても、現地の人々が時間に焦ったり、急いだりすることはあまり見かけません。時間に対しておらかでのんびりした人が多いのです。

分単位で電車やバスがやってきて、時間通りに目的地に行くことができるのが当たり前の日本。時には駆け込み乗車をしてまで、忙しい気持ちで生活をしていましたが、グアテマラでの「急がない生活」は私にとって新たな価値観を得られた気がします。



わが町、サンティアゴ・アティトラン市から望むアティトラン湖。



日暮れのアティトラン湖。‘世界一美しい湖’の異名も納得する景観です。



川で洗濯、ならぬ、湖で女性たちが洗濯しています。



雨季（グアテマラでは雨が多い季節を冬としています）のある日に、
ホストファミリーと湖水浴。寒すぎて5分で帰りました（笑）。



日曜の早朝、湖沿いの見晴らし台では民族衣装を着た男性がマヤ文化の伝統的なお祈りを
していました。アティトラン湖は生活に欠かせない存在のようです。